

「歌劇 幕臣・渋沢平九郎」感動を再び!!

埼玉県合唱祭で渋沢平九郎をうたう会



男声合唱団コール・グランツ/フッキー会 **野口享治**

第68回埼玉県合唱祭が、6月の土曜、日曜に計5日間開催された。今年は新型コロナが第5類に移行したなか、「感染対策をとりながら、以前の状態にできることから工夫してやっという埼玉合唱連盟の基本姿勢をうけて、各合唱団が工夫を凝らしたパフォーマンスを披露し、昨年以上に楽しませてくれた合唱祭となった。

6月11日(日)さいたま市文化センターの第4部のステージに、「歌劇 幕臣・渋沢平九郎」の上演のために集まった有志が、コロナ禍の中において3回の公演を経て再結集した。

この日の第4部に出演した11団体のうち、7団体は高校生であり、合唱だけでなくダンスパフォーマンスなどもかっこよく決め、大いに盛り上がったが、「渋沢平九郎をうたう会」の“自称ゴールデンエイジ?”メンバーの出で立ち、上下黒で足袋姿という幕末の武士姿での登場である。

衣装は初演の時からお世話になっている「武器屋」さんによるもので、本格的に作られている。刀も竹光ではなく金属製のためステージ上で抜くことが許されなかった。高校生の聴衆も「どんなパフォーマンスをするのか?」と興味津々といった様子が見てとれた。まさに歌劇のワンシーンが、8分間という限られた演奏時間のなかで披露された。

合唱祭で歌劇を再現!

渋沢平九郎は、かの渋沢栄一の見立て養子として渋沢家に入ったのち、彰義隊に加盟、上野戦争から敗走し、飯能戦争で壮絶な戦いの末、深手を負い、最後は自刃して短い生涯を閉じた若武者の物語である。

※この歌劇のあらすじは以下のサイトでご覧ください。

<https://www.unist.co.jp/heikuro/opera/>

演奏したのは、高崎城乗っ取り謀議の場面で歌われる「決起の歌」と、彰義隊結成の場面で歌われる「雪冤の歌」(雪冤:無実の罪であることを明らかにすること)の2曲。いずれもソリストと男声合唱の掛け合いの曲である。

作詩:酒井清・磯野隆一・小山充子・齊藤則昭

作曲:西下航平

指揮:磯野隆一 / ピアノ:池山恵未

合唱祭では、有名なオペラの合唱曲が演奏される機会はあるが、このような書き下ろしの曲が5名ものソリストとともに、演奏される機会はまれであると思う。

なかでも今回、渋沢平九郎役のテノール大田翔さんと、野八郎役のバリトン井出壮志朗さんの演奏は圧巻であり、「まさにプロ!」といった心が震えるパフォーマンスであった。高校生のみなさんもさぞや、びっくりされたことであろう。



渋沢資料館

さあ、今年はいよいよ合唱活動復活の年。今後も、これまでのような「合唱祭」の枠にとらわれない、新しいパフォーマンスの演奏も是非楽しんでいきたいと思う。

振り返ると、「歌劇 幕臣・渋沢平九郎」の初演はまさにコロナ禍の真ただ中であった2021年2月であった。どこの施設も貸し出しが中止されて途方に暮れていたところ、平九郎の故郷である埼玉県深谷市と、深谷市民文化会館の多大なるご協力によって開催に漕ぎつけた。ありがたかった。



コロナ禍という厳しい環境の中、四苦八苦しながらも初演を実現した時の様子は『コロナ禍乗り越えオペラ上演<歌劇 幕臣・渋沢平九郎>』(加藤良一著)としてAmazonオンデマンドで出版されている。

[コロナ禍乗り越えオペラ上演<歌劇 幕臣・渋沢平九郎> | 加藤良一 | 本 | 通販 | Amazon](#)